














審査を終えて（小学校の部）

平成29年3月24日 本部書写委員会

年	詢	審査員からのコメント	
小学校 三年	お 年 玉	お	<p>①二画目の「はらい」の方向と筆使い * はらいの方向に注意して書きます。 △下の方にはらってしまうものが目立ちました。3画目の「点」につながる感じで「はらい」を書きましょう。 ・硬筆で書くときも意識は同じです。</p> 
お 年 玉	年	年	<p>②横画の間隔と六画目の位置 * 書き順と横画の間隔の取り方に注意して書きます。 ○横画の間隔の取り方はできていました。 △3画目の書き方によって、2画目と4画目の間隔が開いてしまうものがありました。 △6画目は、中心より少し右側に寄って書いてもよいです。</p> 
お 年 玉	玉	玉	<p>③一面目と四面目の始筆・終筆の筆使い * 穂先の向きや止めに注意して書きます。 △「始筆はしっかり穂先をそろえて書く終筆はしっかりかき止める」という基本的な筆使いができるようにしましょう。 △始筆は意識されても、終筆の止めの筆使いが弱いものがありました。</p> 
お 年 玉	玉	玉	<p>④五画目の点の筆使い * 穂先から入って、しっかり止めて書きます。 △穂先がバサバサだったり、筆をトンと置いて、書いたりしたものがありません。 ・穂先から入って「1、2」のリズムを意識して書きましょう。</p> 

評 詢		審 査 員 か ら の コ メ ン ト		
小学 校 四年	天 空 の 星	天	<p>①横画の始筆・終筆の筆使いと四画目の「はらい」</p> <p>* 四画目は、初めは筆先から入り、次第に筆圧をかけて太くし、しっかりと止めてから右横にはらいます。</p> <p>○横画の始筆、終筆はよくできている作品が多かったです。</p> <p>△四画目のはらいは、しっかり止まっていない作品が目立ちました。また、最後まではらわずに、とちゅうではらいが切れている作品もありました。</p>	
	空	<p>②三画目の「はらい」の筆使いと上下の組み立て</p> <p>△しっかりと止まらずにはらっている作品がありました。また、止めるときに筆を引きすぎ、肩が落ちるような形の作品もみられました。</p> <p>○組み立ては概ねできていましたが、穴冠が大きすぎたり、中心がずれたりしている作品もありました。</p> <p>△観点ではありませんが、2画目をはらったり、五画目をはねたりはらったりする誤字が目立ちました。</p>		
	の	<p>③「はらい」の方向と筆使い</p> <p>○全体的によくできていました。</p> <p>△はらいが雑なものや、かすれている作品もありました。筆に適量をつけ、最後まで丁寧にはらうことを心がけてほしいと思います。</p>		
	星	<p>④横画の間隔と文字の中心</p> <p>○横画の間隔、文字の中心は全体的によくできていました。</p> <p>△始筆、終筆ができていない作品がありました。特に縦画の始筆が悪いものが目立ちました。</p> <p>△生が大きくなりすぎて、日とのバランスの悪いものもありました。</p>		

天空の星

	雪	<p>③「冫」の形と「冫」と「ヨ」の組み立て</p> <p>○上下の部分の大きさのバランスがよくできていました。</p> <p>△2画目、4画目をはらっているものがありました。特に2画目は、左下方向にしっかりとめです。</p> <p>△雨冠の四つの点の書き方が乱暴になっているものがありました。小さな画も丁寧に書きます。</p> <p>△雨冠の左右のバランスが良くないものが多かったです。</p> <p>△4画目が短すぎるもの、または、点が下まで下がってしまっているが目立ちました。</p>	 <p>〈うまく書かれた雨冠の例〉</p> 
	原	<p>④「厂」と「泉」の組み立てと文字の中心</p> <p>△紙面に対して左に寄っているものが多かったです。1画目と2画目の接し方が違うと、文字が左に寄ってしまいやすくなります。2画目は、1画目の下に接するようにします。</p> <p>△1画目の長さが短いために、文字全体は細長くなってしまったものが目立ちました。</p> <p>△「たれ」と「なかみ」の組立がよくありませんでした。「たれ」のある文字では「なかみ」は、紙の中心よりやや右に書きます。</p>	 <p>〈縦長の字形の例〉</p>  <p>〈「たれ」と「なかみ」が寄りすぎの例〉</p> 

年 齢	詢	審 査 員 か ら の コ メ ン ト	
小 学 校 六 年	新 春 の 海	新	<p>①「へん」と「つくり」の組み立て</p> <p>*へんとつくりは、点画をかみ合わせてバランスをとります。</p> <p>△へんの「立」が大きく「木」が小さいものがたくさんありました。部分の位置、大きさに気をつけましょう。</p> <p>△へんの右側がそろっていないために、左へ傾いているものがありました。</p> <p>△「新」の最後の画が長すぎる作品が多くありました。「春」という字にぶつからないとはいえ、4文字のバランスに気をつけてほしいと思います。</p>  <p>△へんとつくりが離れている</p> <p>△「木」が小さく つくりが大きい</p>
	新 春 の 海	春	<p>②左右の「はらい」の方向と筆使い</p> <p>*4画目から5画目のはらいは、つながりを意識して、穂先から筆圧をかけて太くし、(穂先の向きを上)にしっかりと止めてから右方向に払います。</p> <p>○4画目から5画目の始筆へのつながりはよくできていました。</p> <p>△右払いの筆づかいの練習を望みます。しっかりと止まっていないもの、斜め右上にはねているものが目立ちました。</p> <p>また、右はらいは、左手の動きも大切です。紙をしっかりと押さえて丁寧にはらいます。</p>  <p>△向きを変えただけ</p> <p>△止めていない</p> <p>△はね上げている</p>
	新 春 の 海	の	<p>③「曲がり」の筆使いと「はらい」</p> <p>*中央から左下に筆を下ろし、しっかり止めてから上にもち上げ、なめらかに弧をえがきながら筆圧をかけていきます。最後は丁寧に穂先をそろえるようにはらいます。</p> <p>△筆圧をかけながら太くしていくことが難しいようです。</p> <p>△はらいが雑なもの、かすれも目立ちました。また、かすれたために二度書きした作品も目立ちました。ゆっくりと丁寧にはらうようにしましょう。</p>  <p>△はらいが細かい</p> <p>△止めていない</p> <p>△最後のはらいが雑</p>
	新 春 の 海	海	<p>④穂先の動きと点画のつながり</p> <p>*さんずいの点は、トンと筆を置くだけでなく、穂先から入り筆圧を強くしたり弱めたりするなど穂先の動きと次の画へのつながりが必要です。</p> <p>△お手本にある点画のつながりの線をわざと書き足しているものがありました。</p> <p>△乱暴な筆づかいのものが目立ちました。穂先を整え、まとめるように丁寧に動かすことが大切です。</p> <p>△「海」の7画目が、紙のスペースがなく貧弱なはねになってしまった作品がありました。</p>  <p>△不自然なつながり</p> <p>点画のつながりでできた線です。</p> <p>※穂先の動き、点画のつながりの指導には、筆順を確認することが大切です。</p>

⑤全体のまとめ・筆勢について

○手本をよく見て、丁寧に書こうとしている作品が多かったです。

○紙面に四文字がまとめよく書かれているものが多かったです。文字の大きさ、中心の取り方もよかったです。

△紙の大きさに対して、文字の大きさが小さく、弱々しく感じる作品もありました。大きく太めに書くように意識しましょう。

△中心がそろっていない作品の多くは、紙を折っていませんでした。清書用紙も折って、文字の中心を意識させてください。

△名前も作品の一部です。毛筆作品として丁寧に書くように心がけましょう。

△小筆で書いた名前が、ネームペンで書いたように堅い線のものが多くありました。小筆も筆の弾力を使い、柔らかい線で書けるようになってほしいです。

<全体を通して>

- ・筆が荒れていたり、墨の付け方が足りなかったりして線が荒れて見える作品がありました。墨が筆の芯まで入るようにしっかりなじませ、一点、一画、穂先を丁寧に整えてから書くようにするとよいでしょう。丁寧に書こうとする態度につながります。
- ・横画等、入門期の始筆、終筆等、基本的な筆使いが身に付くよう練習をやってほしいと思います。
- ・起筆、終筆等、基本点画やの練習をしっかりとするとともに、画の接し方にも留意してほしいと思います。
- ・観点をよく見て、書いてほしいと思います。
- ・濃墨を使って書いているために、他の作品にくっついているものがありました。適度な濃度になるよう見てあげてください。
- ・敷き写しや、爪などで書いた線をなぞっている（骨書き）作品が多くありました。練習ではともかく、清書でそれをしないでほしいと思います。

* 「新」の横画で、長く書く画が違うのではないかという問い合わせがありました。手書き文字には様々な書き方があり、書道五体字典などを調べると様々な字例があります。また、常用漢字表の「『（付）字体についての解説』 第2 明朝体と筆写の楷書との関係について 2 筆写の楷書では、いろいろな書き方があるもの （1）長短に関する例」では、許容の例が示されています。平成28年2月29日文化審議会国語分科会報告の「常用漢字表の字体・字形に関する指針」（三省堂）でも、p103 や p157、p205 などに詳しく解説されています。漢字や書写の指導をする先生は是非ご一読いただければと思います。